

2024年度 日本財団助成事業

ライフセービング事業の高度化 成果報告



ライフセービング事業の高度化 2024

【最終目的】

子どもたちが積極的に海に関わり、多くの人がより安心して楽しめる海岸環境を次世代にむけて整えるため、自治体や公的救助機関、研究機関と連携した①海水浴場リスク評価や②海辺のみまもりシステムやドローンなどの先端技術の導入、③救急隊と連携したシミュレーション審査会、④消防へのIRB技術提供などを通じて、ライフセーバーと各機関が連携した安全性の高い海水浴場（海岸）を全国に増やし、海辺に関わるすべての人が支え合あう事故ゼロの海辺空間の創出を目指す。

【中長期の目標】

自治体や公的救助機関との連携を強化し、監視救助、先端技術、安全教育等の持てる知見を全て投入した海辺の事故がおきにくい、子どもや大人が安心して遊べる海岸づくりを先駆的な取り組みのモデルケースとして、重点地域の海水浴場（千葉、神奈川、静岡、福井、沖縄）を中心に高度化を進め、総合的な海辺の事故防止、安全性の高い海水浴場の創出を実現し、全国の海岸へ展開する。

高度化の各段階 [海辺の事故防止と安全性の高い海水浴場創出にむけて]

Stage 1 リスク評価の実施



Stage 2 「海辺のみまもりシステム」導入とWater Safetyアプリによる離岸流事故防止の実現



Stage 3 「海辺のみまもりシステム」の機能強化による総合的な事故防止の実現 [風アラート、津波防災、助けてサイン、遊泳者への通知、公的救助機関連携 等]



Stage 4 先端技術を活用した人命救助の実現 [ドローン等によるパトロール&レスキュー]



Stage 5 高度化環境構築；海辺に関わるすべての人が支え合あう事故ゼロの海辺空間の創出 [誰でもライフセーバー、レスキューになれる社会]

→リスク緩和策の見直しと実施による安全性の高い海水浴場の維持

→シミュレーション審査会の実施を通じたLSの救助力向上と地方自治体や公的救助機関との連携強化の継続

→消防IRB救助技術提供を通じた公的救助機関との連携強化の継続

→ICTなどを活用した教育事業の継続展開

ライフセービング事業の高度化 2024

【1. 1年後の到達目標の達成状況】

Table 1 ライフセービング事業の高度化の到達目標と2024年度の実績

項目	到達目標	実績
1. 自治体と公的救助機関との連携によるライフセービング活動の高度化	海水浴場のリスク評価	新規JLA認定海水浴場5ヶ所、更新12ヶ所でリスク評価を実施。 【新規】5ヶ所；熱川海水浴場（静岡県東伊豆町），今井浜海水浴場（静岡県河津町），あそビーチ石狩（北海道石狩市），磯ノ浦海水浴場，片男波海水浴場（和歌山県和歌山市） 【更新】12ヶ所；白浜中央海水浴場（静岡県下田市），白浜大浜海水浴場（静岡県下田市），外浦海水浴場（静岡県下田市），多々戸浜海水浴場（静岡県下田市），入田浜海水浴場（静岡県下田市），吉佐美大浜海水浴場（静岡県下田市），北条海水浴場（千葉県館山市），本須賀海水浴場（千葉県山武市），逗子海水浴場（神奈川県逗子市），若狭和田海水浴場（福井県高浜町），須磨海水浴場（兵庫県神戸市），田ノ浦海水浴場（大分県大分市）
	AI&IoT監視救助 「海辺のみまもりシステム」	重点地域の沖縄県アポガマでシステムの新規開発・導入。 離岸流を高精度（Accuracy=82%, Precision=76%, Recall=100%）で検知可能なAIモデルを開発。
		システム導入後、 すべての海水浴場（6ヶ所） で離岸流に起因する事故数が大きく減少、もしくは 事故ゼロを実現 。アンケート調査結果もふまえてシステムの有用性を確認。
		レスキューエリア機能の運用、LS救助要請用スマートウォッチアプリの開発・導入。 AR（拡張現実） を用いてスマートフォンで離岸流エリアを確認可能な技術を開発。
		ドローン・トロールシステムの運用（2ヶ所）【Stage4】 若狭和田海水浴場にて、 システム-ドローン連動の本運用 を実施し、 有用性を確認 。 沖縄県アポガマ海岸にて、 システム-ドローン連動 のためのドローン試験飛行を実施。
	シミュレーション審査会	重点地域を含む5ヶ所で実施。 千葉県鋸南町保田海岸、神奈川県横浜市海の公園、鹿児島県姶良市重富海岸、静岡県牧之原市さがらサンビーチ、兵庫県神戸市須磨海岸
	消防へのIRB救助技術提供	重点地域を含む9機関で実施。 岐阜県高山市消防本部、宮城県延岡市消防本部、千葉県匝瑳市横芝光町消防組合、岡山県瀬戸内市消防本部、岡山県真庭市消防本部、鹿児島県南大隅町役場、千葉県夷隅郡広域市町村圏消防本部、神奈川県横須賀市消防局、茨城県常陸大宮市消防本部
	e-log（電子ログ）運用	8機能の拡充。 ①前回入力内容表示、②数値スクロール選択、③遊泳条件更新、④入力確認、⑤入力済項目色変化、⑥入力配置、⑦活動予定日入力、⑧申し送り事項入力
	情報発信	高度化事業の各アクションについて JLAホームページ、SNS等 で発信。
2. 監視救助活動にかかる器材配備		全国各地の49団体（地域クラブ、都道府県協会）に器材配備。 レスキューボード40本、レスキューチュープ120本、AED10機、エリアフラッグ30セットを全国のLSクラブに配備 レスキューボード45本、レスキューチュープ128本、AED10機、フラッグ18セットを、富山県滑川LSC、富山県八重津浜LSC、熊本県北熊LSC、香川県女木島LSCなど新しいライフセービングクラブを含む全国49クラブに配備。

ライフセービング事業の高度化 2024

【2. 事業成果の測定】

Table 2 2024年の事業成果

項目	事業成果の測定	事業成果 [2024年3月]
1. 自治体と公的救助機関との連携によるライフセービング活動の高度化	①海辺のみまもりシステムによる離岸流検知率 80%以上 [機能検証]	<p>沖縄県恩納村アポガマ海岸において、海辺のみまもりシステムの開発、2025年度運用開始。</p> <p>システムによる離岸流検知の正しさ82%。 Accuracy [精度] 82%, Precision [適合率] 76%, Recall [再現率] 100%のAIモデルを構築。Recallが100%であることから、離岸流発生を見逃さないシステムと評価。</p>
	②海辺のみまもりシステムによる離岸流・風事故の低減効果 救助件数50%以下 [高度化事業実施前との比較]	<p>海辺のみまもりシステムが運用されている海水浴場では、ライフセーバーによる安全管理とシステムによる離岸流と要救助者の検知・通知により、離岸流事故（離岸流に起因するレスキュー）が大きく減少、もしくは離岸流事故ゼロを実現。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉由比ガ浜；2015～2019年（高度化事業実施前かつCovid-19影響前）の離岸流事故の平均215件に対して、2024年の離岸流が要因の救助は19件、離岸流事故が38%に減少（利用者数考慮）。 鎌倉中央・材木座；2015～2019年の離岸流事故の平均6件（最大20件）に対して、2024年は事故ゼロ。 吉佐美大浜；2015～2019年の離岸流事故の平均13件（最大20件）に対して、2024年は事故ゼロ。 若狭和田ビーチ；2015～2019年の離岸流事故の平均2件（最大5件）に対して、2024年は事故ゼロ。 2015～2019年の沖向きの風による事故の平均23件（最大45件）に対して、2024年は事故ゼロ。 御宿中央；システム運用後は離岸流事故減少もしくは事故ゼロ。2024年はシステム故障。2025年運用にむけて修繕。 青島；システム運用後は離岸流事故ゼロ、2024年システム移設。
	③ライフセーバー、地方自治体の安心度 80%以上 [ヒアリング調査]	システム運用の海水浴場の自治体、ライフセーバーへのアンケート調査 (n=31) より、 97% (とてもそう思う69%, そう思う28%) が「 海辺のみまもりシステムは海水浴場の事故防止に有効 」と回答。
	④新たに5つの市町村と連携強化	<p>高度化の各事業を通じて新たに8市町村と関係、連携強化。</p> <ul style="list-style-type: none"> リスク評価を通じた新たな市町村 [4]；静岡県東伊豆町、静岡県河津町、北海道石狩市、和歌山県和歌山市。 海辺のみまもりシステム導入を通じた新たな市町村 [1]；沖縄県恩納村。 IRB救助技術講習を通じた新たな消防本部 [2]；岐阜県高山市、岡山県真庭市。 シミュレーション審査会を通じた新たな市町村 [1]；鹿児島県姶良市。
2. 監視救助活動にかかる器材配備	JLA新規登録海水浴場の数値（2023年度との比較）	<p>2024年にライフセーバーが活動した海水浴場数は213ヶ所。海水浴場閉設、LS不足等の理由により、2023年に比べて3ヶ所減。一方、新規にライフセーバーが活動した海水浴場は7ヶ所。</p> <p>機材配備がスタートした2002年に対しては71ヶ所増加（142ヶ所 → 213ヶ所、約1.5倍）。</p>

ライフセービング事業の高度化 2024

【3. 海水浴場リスク評価；JLA認定海水浴場】安心安全な海水浴場の創出と市町村との連携強化を目的に、2024年は新規5ヶ所がJLA認定海水浴場に認定され、新規と更新12ヶ所でリスク評価を実施しました。



JLA認定海水浴場 計43ヶ所（2025年3月時点）

2019年度；新規6ヶ所、更新2ヶ所
2020年度；新規6ヶ所、更新1ヶ所
2021年度；新規8ヶ所、更新3ヶ所
2022年度；新規8ヶ所、更新7ヶ所
2023年度；新規5ヶ所、更新6ヶ所
2024年度；新規5ヶ所、更新12ヶ所

- ✓ 福井県高浜町若狭和田 2015, 2018, 2021, 2024
- ✓ 兵庫県神戸市須磨 2018, 2021, 2024
- ✓ 東京都新島村新島黒根 2016, 2019, 2022
- ✓ 千葉県山武市本須賀 2018, 2021, 2024
- ✓ 神奈川県鎌倉市由比ヶ浜 2016, 2020
- ✓ 東京都新島村式根島泊 2019, 2022
- ✓ 千葉県御宿町御宿中央 2019, 2022
- ✓ 宮崎県宮崎市青島 2019, 2022
- ✓ 静岡県牧之原市静波 2019, 2022
- ✓ 静岡県牧之原市相良サンビーチ 2019, 2022
- ✓ 神奈川県湯河原町湯河原 2019, 2022
- ✓ 神奈川県藤沢市片瀬西浜 2020, 2023
- ✓ 神奈川県横浜市海の公園 2020, 2023
- ✓ 千葉県銚子市銚子マリーナ 2020, 2023
- ✓ 千葉県九十九里町片貝 2020, 2023
- ✓ 千葉県九十九里町不動堂 2020, 2023
- ✓ 大分県大分市田ノ浦ビーチ 2020, 2023, 2024
- ✓ 千葉県館山市北条 2021, 2024
- ✓ 神奈川県逗子市逗子 2021, 2024
- ✓ 静岡県下田市白浜中央 2021, 2024

- ✓ 静岡県下田市白浜大浜 2021, 2024
- ✓ 静岡県下田市外浦 2021, 2024
- ✓ 静岡県下田市多々戸 2021, 2024
- ✓ 静岡県下田市入田浜 2021, 2024
- ✓ 静岡県下田市吉佐美大浜 2021, 2024
- ✓ 神奈川県平塚市湘南ひらつかビーチパーク 2022
- ✓ 愛知県南知多町内海千鳥ヶ浜 2022
- ✓ 沖縄県座間味村古座間味ビーチ 2022
- ✓ 沖縄県座間味村阿真 2022
- ✓ 沖縄県座間味村北浜ビーチ 2022
- ✓ 千葉県勝浦市興津 2022
- ✓ 宮城県七ヶ浜町菖蒲田浜 2022
- ✓ 宮城県気仙沼市小田の浜 2022
- ✓ 岩手県陸前高田市高田松原 2023
- ✓ 静岡県静岡市用宗 2023
- ✓ 和歌山県白浜町白良浜 2023
- ✓ 山口県萩市菊が浜 2023
- ✓ 東京都三宅島三宅村伊ケ谷 2023
- ✓ 静岡県東伊豆町熱川 2024
- ✓ 静岡県河津町今井浜 2024
- ✓ 北海道石狩市あそビーチ石狩 2024
- ✓ 和歌山県和歌山市磯ノ浦 2024
- ✓ 和歌山県和歌山市片男波 2024



静岡県河津町今井浜海水浴場

静岡県東伊豆町熱川海水浴場

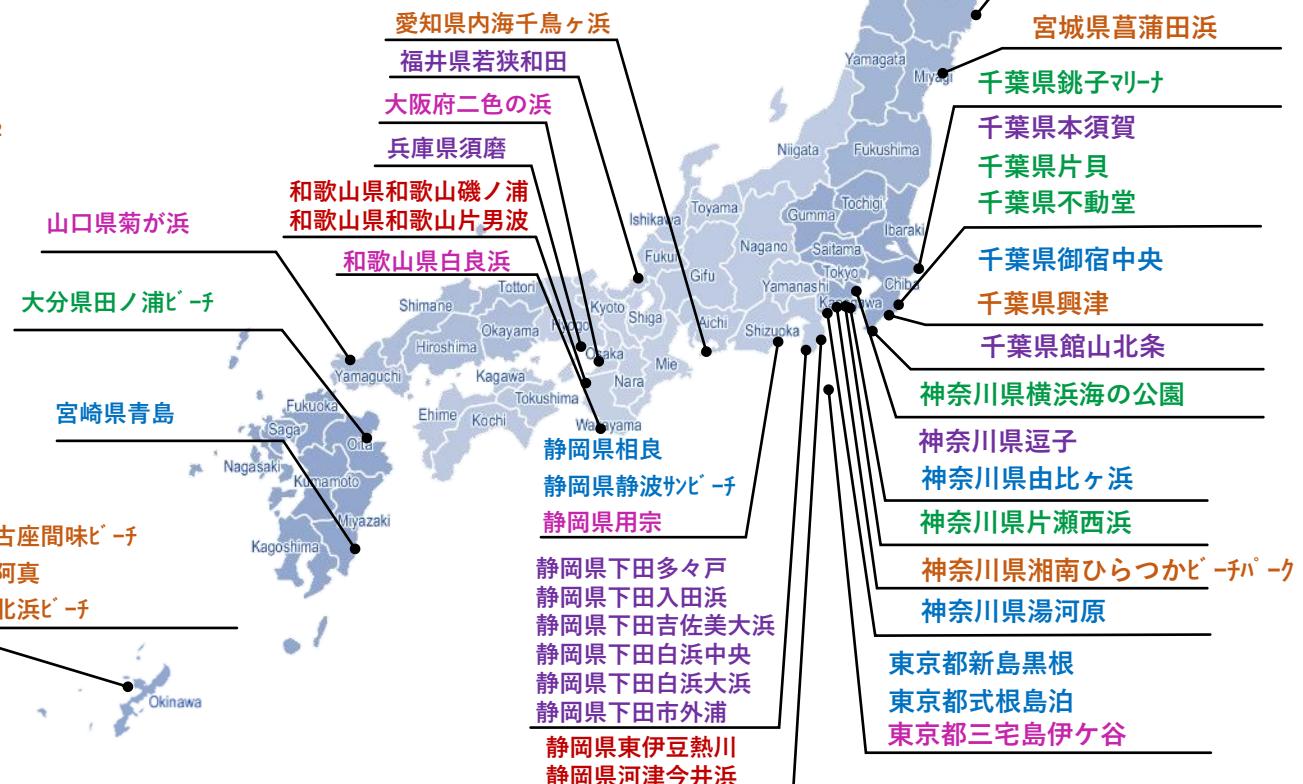


Fig. 1 JLA認定海水浴場（リスク評価実施海岸）

ライフセービング事業の高度化 2024

【4. 海辺のみまもりシステム】

先端技術の導入による自治体と連携した安全安心な海辺空間の創出にむけて、2024年は沖縄県恩納村アポガマビーチにてシステムを開発しました（2025年運用開始）。

若狭和田海水浴場において、システム-ドローン連携の本運用を行いました。

各海水浴場におけるシステムの溺水事故防止に関する有用性（機能）を評価しました。



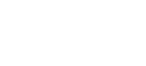
3rd Beach
[開発2020, 運用2021-]
福井県若狭和田



2nd Beach
[開発2019, 運用2020-]
宮崎県青島



7th Beach
[開発2024, 運用2025-]
沖縄県恩納村アポガマ



1st Beach
[開発2018, 運用2019-]
千葉県御宿中央



Fig. 2 海辺のみまもりシステム導入・運用海岸

ライフセービング事業の高度化 2024

【4. 海辺のみまもりシステム】① 新規導入・システム開発 [恩納村アポガマビーチ]

2024年は、沖縄県恩納村アポガマビーチでシステムを開発しました。ライフガードの巡回と海辺のみまもりシステムにより、離岸流による事故防止を目指します。システムに搭載するAIモデルは、アポガマビーチで発生する離岸流を高精度で検知可能です。

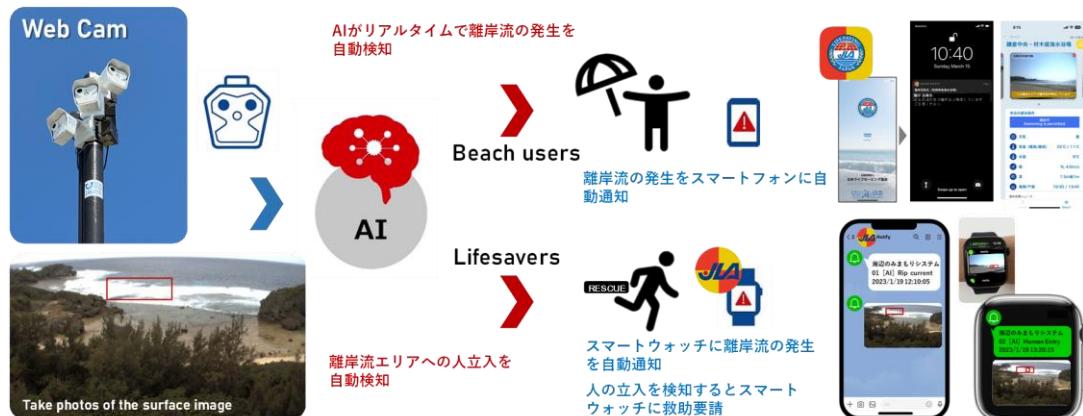


Fig. 3 海辺のみまもりシステムの機能

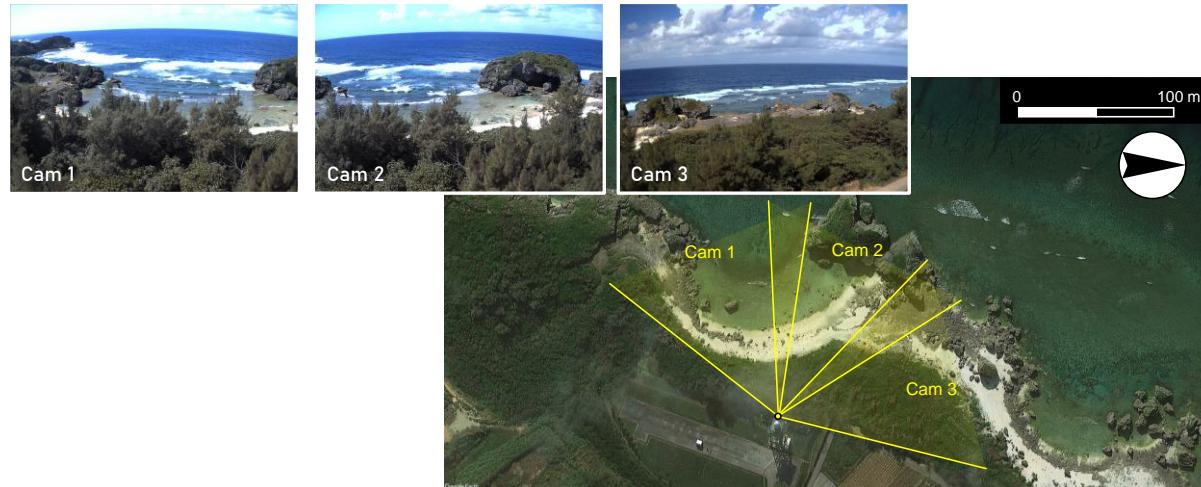
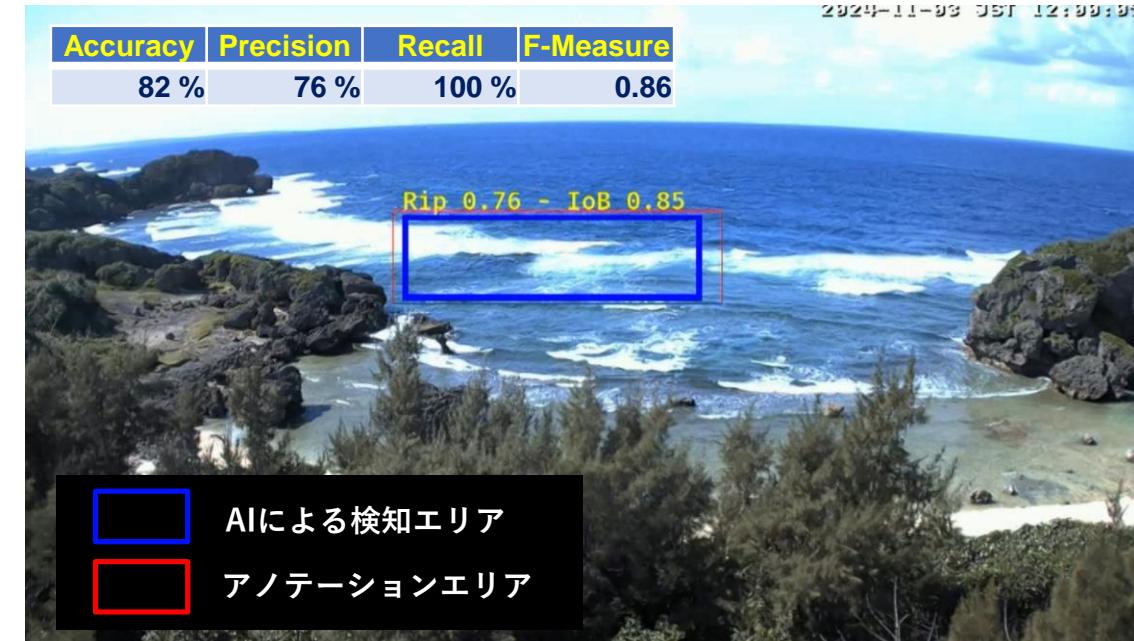


Fig. 4 Webカメラの設置位置と撮影範囲

システムからライフセーバーに救助要請を発報する手段に、従来はLINEを使っていましたが、通知制限や携帯端末が必要などの課題があったことから、救助要請のみに特化した”スマートウォッチ専用アプリ”を新たに開発しました。



Accuracy [精度] ; 離岸流の有無を正しく検知できた割合

Precision [適合率] ; 離岸流と検知したものが本当に離岸流だった割合

Recall [再現率] ; 実際の離岸流を正しく離岸流と検知できた割合

AIのRecallは100%，誤検知はあるが離岸流発生を見逃さないと評価できます*。

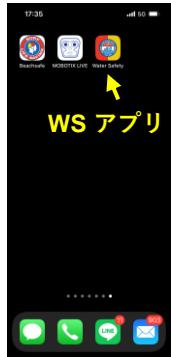
* AIモデルの精度向上のため、運用前までにAI学習を継続。

Fig. 5 2nd AIモデルによる離岸流検知の検証結果の例

ライフセービング事業の高度化 2024

【4. 海辺のみまもりシステム】② Water Safetyアプリの機能拡充, ③e-logの運用

システム新規導入のアポガマビーチ（2025年4月から運用開始）を追加しました。



[ライフセーバーが活動している水浴場]
地図、住所、遊泳期間、アクセス、LS活動時間、
遊泳エリア、水質、トイレ、シャワー
駐車場、海の家、LSのワンポイントアドバイス
アクセスした携帯のGPS機能により、最寄りの
海水浴場を表示



[海辺のみまもりシステム]
カメラ画像
遊泳条件、天気、気温、水温、風、波、潮位
海水浴場ニュース（例）
・お子様から目を離さないようお願いします。
・ゴミは砂浜に放置しないでください。
・遊泳は9時から17時まで。
・台風の影響で波が高くなっています。
・沖合には行かないようご注意ください。

離岸流発生時、
オフショアの風発生時には
プッシュ通知にて利用者に
注意喚起



[津波情報＊]
津波注意報、津波警報、大津波警報
日時、地域、地図、内容
＊気象庁（気象業務支援センター）から提供



DL 13,476人 (2025.3.31)



App Store
からダウンロード



Google Play
で手に入れよう

e-log

パトロールログ（電子化）を全国のLSが活動する海水浴場で運用しました。これにより、①水難事故防止として、夏季シーズン中の速報値を定期的に発信し、注意喚起を実施しました。②海上保安庁、警察庁と同じタイミングの夏季終了後の9月に速報値を発信しました。

【2024年実績】

e-log活用；203海水浴場
従来のデータ入力；10海水浴場
LS活動海水浴場 計213ヶ所

総利用者数 約392万人
救助 458件 (PA450件, EC8件)
応急手当 4,621件
救急搬送 183件



2024年 e-log 夏季速報



利用者数 352万人
海水浴場数 193
LS活動海水浴場数 223



Emergency Care 7
意識がない人の救助



Preventive Action 401
意識がある人の救助
自然要因



First Aid 3,372

JAPAN
LIFESAVING
ASSOCIATION

離岸流に流される26% 風に流される36%

レスキューカリキュラム
救助要因：風浪50%、海岸漂流26%、沿岸流12%、沿岸波10%、波4%、その他5%
レスキューカリキュラム
救助要因：水力不足52%，パニック26%，救助1%，その他1%

Fig. 6 Water Safetyアプリの機能向上

ライフセービング事業の高度化 2024

【4. 海辺のみまもりシステム】③ 2024年の運用実績

由比ガ浜海水浴場



由比ガ浜海水浴場



吉佐美大浜海水浴場



若狭和田ビーチ海水浴場



Fig. 7 システムによる離岸流と要救助者の検知の例

ライフセービング事業の高度化 2024

【4. 海辺のみまもりシステム】④ 有用性の検証 [システム運用後の離岸流事故数の変化]

海辺のみまもりシステムが運用されている海水浴場では、ライフセーバーによる安全管理とシステムによる離岸流と要救助者の検知・通知により、離岸流事故（離岸流に起因するレスキュー）が大きく減少、もしくは離岸流事故ゼロを実現しました。



離岸流事故ゼロ

3rd beach [2021-]
若狭和田ビーチ



離岸流事故ゼロ*

2nd beach [2020-]
青島

*2023年の離岸流事故数

離岸流事故ゼロ

5th beach [2023-]
吉佐美大浜



離岸流事故減少

1st beach [2019-]
御宿中央



離岸流事故減少 38 %*

4th beach [2022-]
由比ガ浜



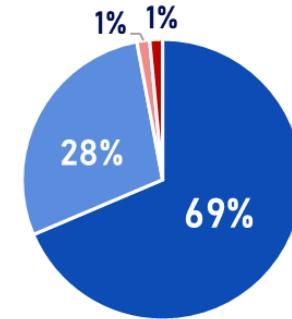
離岸流事故ゼロ

6th beach [2022-]
中央・材木座

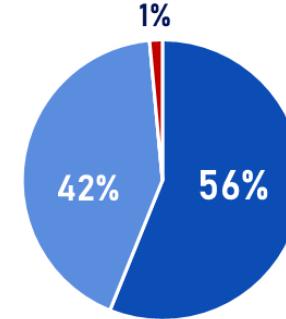
【4. 海辺のみまもりシステム】④ 有用性の検証 [アンケート調査]

アンケート調査の結果、システムは海水浴場利用者の事故防止に有効であり、離岸流の検知、離岸流エリアへの人立ち入りは概ね正しく、離岸流発生、沖向きの風発生のアラート、津波防災機能は海水浴場の安全管理に役立っていると評価できました。

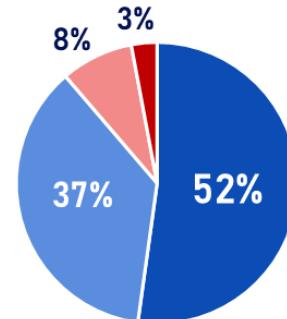
Q1：海辺のみまもりシステムは海水浴場利用者の事故防止に有効か？



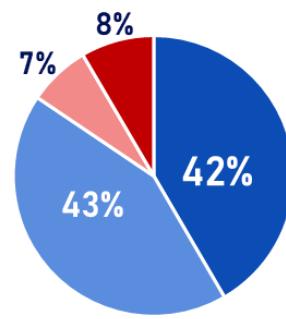
Q2：「WaterSafetyアプリ」は利用者の事故防止に有効か？



Q3：ライフセーバ用スマートウォッチは利用者の事故防止に有効か？



Q4：システムによる離岸流の検知は正しかったか？



Q5：システムによる離岸流エリア内への人立ち入り検知は正しかったか？

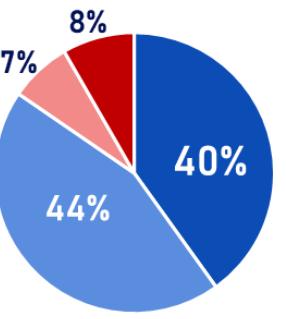


Fig. 9 2024年にシステムを運用した4海岸（若狭和田、由比ガ浜、中央・材木座、吉佐美大浜）の自治体、ライフセーバーを対象にしたアンケート調査結果 (n=31)

ライフセービング事業の高度化 2024

【4. 海辺のみまもりシステム】⑤ 技術開発 [システム-ドローン連動機能]

離岸流エリアの要救助者に対してドローンの自動飛行と音声による注意喚起を行う“システム-ドローン連動機能”の運用を若狭和田ビーチで実施しました（2024年8月）。

“システム-ドローン連動機能”的ためのドローン試験運用を沖縄県アポガマビーチで実施しました（2025年3月）。

若狭和田での運用の結果、システムが要救助者を検知すると、ライフセーバーの簡単なアクションでドローンは485 m離れた要救助者付近に1分以内（V=8.8m/s）で自動飛行し、注意喚起を実施。注意喚起のためにLSが現地に到着する時間を約半分に短縮することが可能など、有用性を明らかになりました。→要救助者にアプローチする時間の短縮、迅速な対応の実現。

2024年度から、自動飛行だけでなく飛行経路を予め設定し、声掛けやカメラを用いた監視を行いました。海水浴場利用者、ライフセーバーによるアンケートの結果、海水浴場の安全管理に役立っていると評価できました。

【現状】



【高度化】



- ③AIによる離岸流の検知
④AIによる離岸流エリアなど危険個所への要救助者の検知
⑤IoTによりライフセーバーに通知



④IoTによる利用者の注意喚起（携帯）



⑤システム連動によるドローン自動飛行

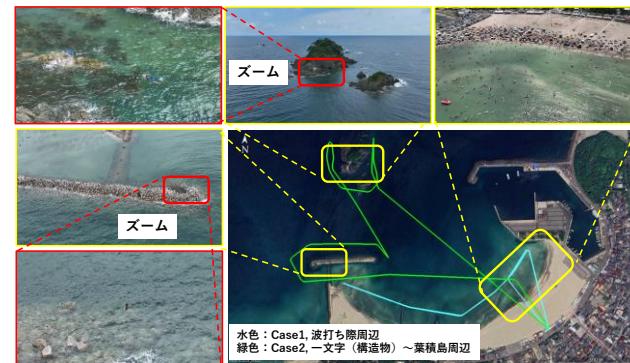
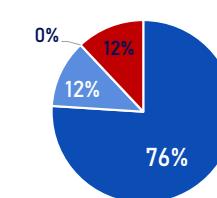


Fig. 10 若狭和田でのドローンパトロール

Q: ドローンによるパトロールは安心・安全な海水浴につながるか？



Q: ドローンによるパトロールは安心・安全な海水浴場の運営につながるか？

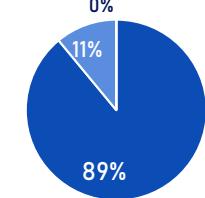


Fig. 12 アポガマでのドローン試験運用

ライフセービング事業の高度化 2024

【4. 海辺のみまもりシステム】⑤ 技術開発 [ARを用いた海辺の危険個所可視化システム]

海辺のみまもりシステムに搭載されているAIが離岸流の発生を検知すると、これまでスマートフォンのWater Safetyアプリに通知し、海浜利用者がWebカメラの定点画像で離岸流の発生を確認する方法でしたが、はじめて訪れる海岸では空間認識が難しいという課題がありました。

この対応として、AIが検知した離岸流エリアをAugmented Reality(AR)技術を用いて可視化するシステムを開発しました。 海浜利用者がスマートフォンで海を映せば離岸流位置を簡単に確認することが可能になりました。



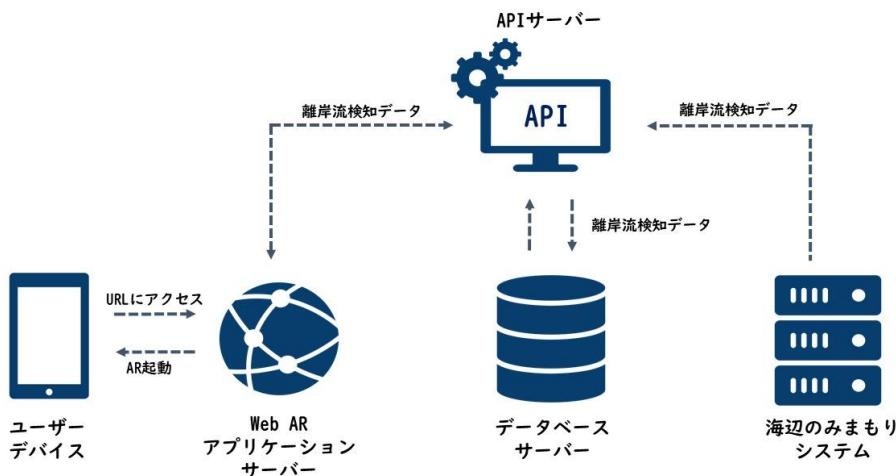
Fig. 13 システムによる離岸流検知



Fig. 14 海岸利用者によるAR技術を活用した離岸流エリアの確認



Fig. 15 オブジェクトの表示例とシステム構成



ライフセービング事業の高度化 2024

【5. シミュレーション審査会】 ライフセーバーの救助力向上と公的救助機関との連携強化を目的に、2024年は5ヶ所でシミュレーション審査会を実施しました。



- 福井県高浜町若狭和田
- 千葉県御宿町御宿中央
- 神奈川県葉山町葉山
- 静岡県牧之原市相良
- 福岡県新宮町新宮
- 千葉県御宿町御宿中央
- 神奈川県葉山町葉山
- オンライン（18都道府県から121名の参加）
- 千葉県九十九里町片貝
- 福井県高浜町若狭和田
- 宮崎県宮崎市青島
- 静岡県下田市吉佐美大浜
- 神奈川県三浦市和田長浜

- 静岡県下田市吉佐美大浜
- 新潟県柏崎市東の輪
- 神奈川県横浜市横浜海の公園
- 兵庫県神戸市須磨
- 大分県大分市田ノ浦
- 千葉県安房郡鋸南町保田海岸
- 大分県大分市田ノ浦
- 神奈川県横浜市横浜海の公園
- 静岡県牧之原市相良
- 和歌山県和歌山市片男波海岸
- 富山県射水市海老江海浜公園
- 千葉県鋸南町保田海岸 [2024.10.27]
- 神奈川県横浜市海の公園 [2024.11.3]
- 鹿児島県姶良市重富海岸 [2024.11.17]
- 静岡県牧之原市さがらサンビーチ [2024.11.24]
- 兵庫県神戸市須磨海岸 [2024.11.30]

2019年度；5ヶ所
2020年度；2ヶ所+オンライン
2021年度；5ヶ所
2022年度；5ヶ所
2023年度；6ヶ所
2024年度；5ヶ所



Fig. 16 シミュレーション審査会実施海岸（2019-2024）

ライフセービング事業の高度化 2024

【6. IRB レスキューの技術提供】地域消防との連携強化と災害対応力強化を目的に、2024年は9機関を対象にIRBレスキューの技術提供を実施しました。



神奈川県横須賀市消防局



岡山県真庭市消防本部



千葉県夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部



岡山県瀬戸市消防本部



- 愛知県岡崎消防
 - 神奈川県横須賀消防
 - 神奈川県葉山消防
 - 神奈川県鎌倉消防
 - 神奈川県逗子消防
 - 島根県松江消防
 - 鳥取県西部消防（米子市）
 - 千葉県市川消防
 - 神奈川県川崎消防
 - 東京都消防庁部会
 - 岡山県倉敷市消防局
 - 津山圏域消防本部
 - 大分県日田玖珠広域消防
 - 鹿児島県姶良市消防本部
 - 神奈川県横浜市鶴見消防署
 - 千葉県匝瑳市横芝光町消防組合
 - 山口県山口市消防本部
 - 宮崎県延岡市消防本部
 - 千葉県夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部
 - 岡山県倉敷市消防局
 - 富山県砺波地域消防組合消防本部
 - 福岡県福岡市消防局
 - 長野県須坂市消防本部

2019年度；9機関
2020年度；4機関
2021年度；3機関
2022年度；7機関
2023年度；9機関
2024年度；9機関

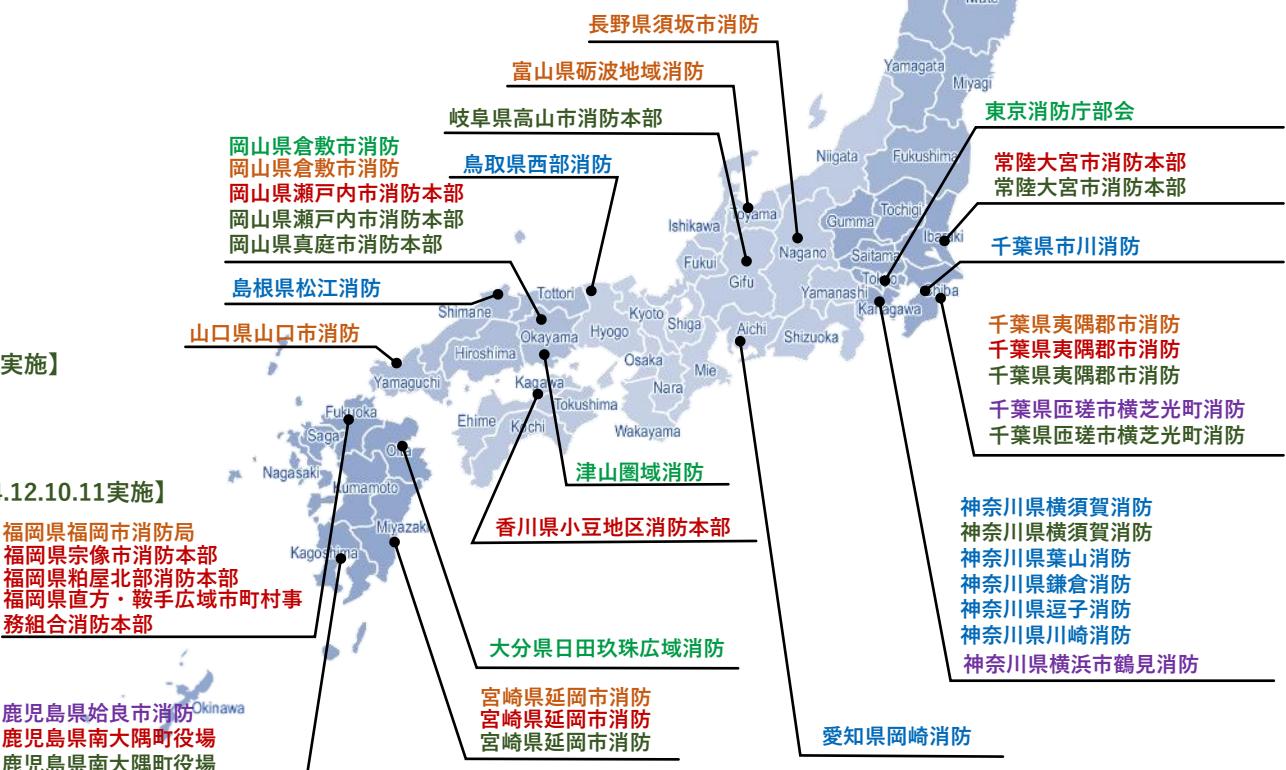
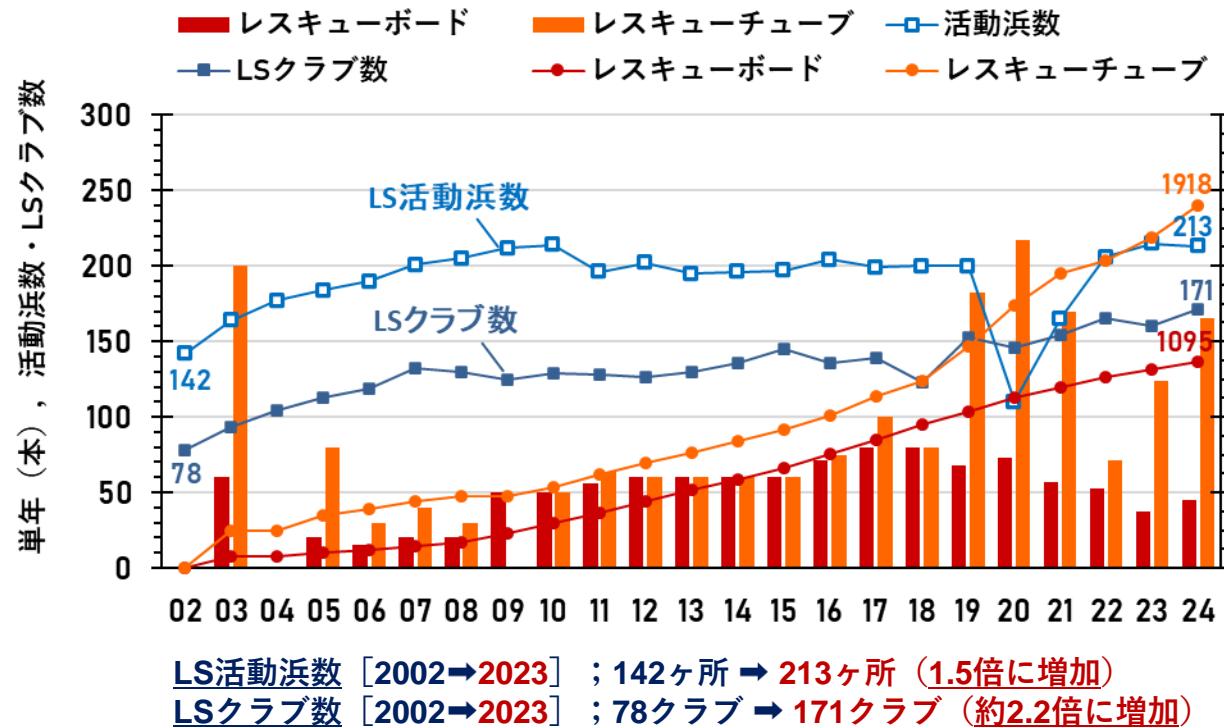


Fig. 17 IRB講習会の開催場所

ライフセービング事業の高度化 2024

【7. 監視救助活動にかかる救助器材配備】

2024年は、レスキューボード45本（計画40本）, レスキューチュープ128本（120本）, AED10機（10機）, フラッグ18セット（30セット）を、富山県滑川LSC, 富山県八重津浜LSC, 熊本県北熊LSC, 香川県女木島LSCなど新しいライフセービングクラブを含む全国49クラブに配備しました。



LS活動浜数 [2002→2023] ; 142ヶ所 → 213ヶ所 (1.5倍に増加)
LSクラブ数 [2002→2023] ; 78クラブ → 171クラブ (約2.2倍に増加)

注) 2020, 2021年はCovid-19の影響により活動浜数が減少。

Fig. 18 これまでの救助機材配備の実績 (2025年3月時点)

